

熟成させたぶどう出荷

～スチューベン出荷最盛～

12月上旬、石川青果センターでぶどう「スチューベン」の出荷の最盛期を迎えました。贈答用の出荷が盛んとなり、1日あたり約600箱（1箱2㍑）を箱詰めし、年末までに全国へ約1万8000箱の出荷を計画しています。

糖度をさらに上げるため、りんごの冷蔵技術を生かして一定期間冷蔵し、熟成させました。出荷は他県産品と競合しなくなる10月下旬から行っています。

ぶどう生産部会の斎藤晴彦副会長は「天候に恵まれ、今年も品質の良いスチューベンができた。消費者の皆さんに美味しく食べてほしい」と笑顔で話しました。



箱詰めをする作業員

りんご箱詰め紀南へ発送

～JA青年部交流活動～

みなみ地区青年部（中村匠部長）は11月10日、「JA青年部交流活動」の一環として和歌山県JA紀南の青年部へりんごを送るため、平賀青果センターで箱詰め作業を行いました。同地区青年部員がりんごを持ち寄り、「サンふじ」100箱（1箱／10㍑）と「王林」（同）35箱を箱詰めし発送しました。

両青年部は平成16年のJA全国青年大会から交流を開始し、互いにりんごやみかんの宣伝販売をするなど交流を深めてきました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため行わず、両JAの特産物であるりんごとみかんを購入し合うことで交流を図りました。

中村部長は「宣伝販売での交流ができないのはとても残念。青年部員が丹精込めて栽培したおいしいりんごを味わってほしい」と話しました。



りんごを箱詰める青年部員